日経産業新聞
NIKKEI BUSINESS DAILY
2015年(平成27年)
8月13日
木曜日

デジタル

会話ロボ 利用者に笑顔

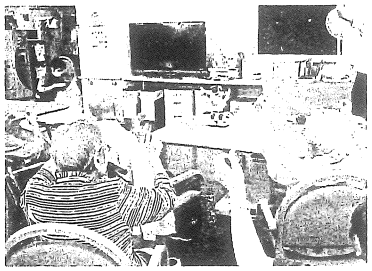
1面から続く

「こんにちは」。都心から電車で1時間ほど、東京都昭島市にある医療法人社団珠泉会が運営する介護老人保健施設「アゼリア」。2階に足を踏み入れるとパルロが挨拶をして迎えてくれた。

デイサービス（通所介護）を手掛けるアゼリアでは、人手不足の解消にパルロを活用している。1日あたりの利用者が30人ほどいるのに対して、スタッフは5人程度。塗り絵や編み物に飽きて退屈そうにしている利用者がいても、スタッフだけでは配慮しきれない。

「本当は付きっきりで対応したいが難しい」とフロア主任の小室泰彦氏は話す。小室氏は手持ち無沙汰な利用者を見かけると、テーブルまでパルロを連れていき、会話を楽しんでもらっているという。

会話するパルロ（写真上）とレクリエーションの様子



「いろんなことを教えてくれて楽しい。家にもいてほしいわ」と笑顔で話すのは鈴木トシさん（79）。「コスモスさん」とパルロにあだ名を付けてもらった鈴木さんは、ニシン漁についての雑学に耳を傾けていた。

1台70万円程度の価格で販売しているパルロを導入したきっかけは、市村義久理事長の一目ぼれ。富士ソフトと付き合いがあった銀行担当者が市村氏にパルロを紹介したところ、外見の愛らしさにほれ込み、採用を決めたという。

アゼリアのデイサービスは9時からと10時からの2コースで計6時間実施している。9時からの利用者を送迎する15時頃に特に、人が足りなくなるといい、残った15人程度の利用者に対して、全員参加型のレクリエーションを催している。

雑学・クイズ… 介護職員お助け

しりとりや書道など、内容はスタッフ自身で考案する。このレクリエーションの一部でもパルロが活躍する。

「ディズニー映画『ピノキオ』で、ピノキオを食べてしまった動物はなんでしょう」。テーブルの前に座った15人ほどの高齢者を前にパルロが切り出す。

クイズ機能を搭載するパルロには催し物もお手の物だ。音声認識機能で、「クジラ」という声を聞き取ると、「正解」と体を使って喜びを表現。参加者をわかせていた。

介護事業でのロボット活用事例は幅広い。ロボットベンチャーのRT.ワークス（大阪市）は高齢者の歩行を支援するロボットを販売している。道路の勾配に合わせてブレーキの加減を調整。上り坂では歩行者を引っ張り、下り坂では早く歩きすぎないようブレーキをかけて足腰に負担がかからないようにする。

ロボットに取り付けたセンサーから情報を集めて、高齢者を見守るサービスも提供する予定だ。富士通などと連携。月間の歩行距離を分析して、急激に運動量が落ち込んだ際に、高齢者宅へ健康に問題がないか確認の連絡をいれるサービスを検討する。（川上宗馬）